

送 辞

秩父の峰に光る雪も溶け始め、春の訪れを感じる季節となりました。三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。保善高校での最後の晴れ舞台に、在校生を代表してお祝いの言葉を贈らせていただきます。

先輩方にとってこの保善高校で過ごされた三年間はどのようなものだったでしょうか。

蛍雪の功で臨んだ定期試験や月例テスト、保善祭や部活動、思い出は十人十色だと思いますが、きっと皆さんにとって大切なものになっていると思います。

部活動や生徒会活動などを通して個々にお話しさせていただく機会はありませんでしたが、私たち二年生が初めて学校行事として先輩方とお会いしたのは、去年の六月に実施されたアカデミックデイの時でした。いざ学年を通しての交流となると迫力はすさまじく、行事を盛り上げようとする先輩方の姿がとても印象的でした。

これからは私たち在校生が、今まで先輩方の作ってきた保善高校を引き継ぎます。皆さんはこれからそれぞれの道に向かって歩いて行かれます。その道は決してなだらかな道ばかりではないと思います。どんな時でも、嵐に立つ樗の木のように強く、たくましく、戸山にそよぐ朝の風にひるがえる剛健の旗のように、広く、大きく羽ばたき続け、自ら明星となって空高く輝くことを、在校生一同心より願っています。

卒業生の皆様のご健康と益々のご発展を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

在校生代表 岡田 昊

答 辞

やわらかな陽が注ぎ、春の暖かさを感じられるようになってきた今日、私たちはこの保善高校を卒業します。

この状況下で素晴らしい式を開催してくださった先生方に御礼を申し上げます。また、ご来賓の皆様、保護者の皆様、ご多忙の中ご臨席いただき心より御礼を申し上げます。

入学直後、不安でいっぱいでした。しかし、先生方のご指導や、親や友達との何気ない会話から今、目の前のやるべきことに集中して、こうと徐々に思えるようになります。学校生活が楽しくなりました。

大きな転機は二年生の時です。私は、生徒会執行部に入りました。自己嫌悪に陥ることもありましたが、先輩や後輩に助けられ、いつの間にか楽しく前向きになっている自分がありました。協働する楽しさは忘れません。もう一つ、大きな転機がありました。新型コロナウイルスの流行により、登校もままならず、行事も中止となり、ストレスが溜まっていく日々でした。ただ、幸運にも私たちは、沖縄修学旅行に行くことができました。今思えば、この修学旅行がなかったら、高校生活の思い出は、色あせたものになったと思います。沖縄の歴史や文化について深めることができ、戦争の悲惨さも実感し、二度と、繰り返してはならない、風化させてもならないと改めて強く思いました。また、豊かな自然の中のサイクリングやカヌーは、とても楽しく、コロナによって溜まっていた嫌なものが吹き飛ばすようでした。これも我々を歓迎してくださった沖縄の皆様のお陰です。当たり前だったことが当たり前ではないことに、気づくことができました。

このように私たちが成長することができたのは、先生方のご指導と支えがあったからこそです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。教わったことを胸に、私たちは保善高校を旅立ちます。保善高校は来年百周年という大きな節目を迎えます。在校生の皆さん、チャレンジする心を忘れず、良き伝統を作ってください。

結びに、本日ご列席いただいた先生方、保護者の方々に感謝の辞を述べるとともに、保善高等学校の益々の発展を心より祈念して答辞の言葉とさせていただきます。

卒業生代表 小阪 詢